

感動一点の場

『水牛のいる風景』
1980年 小川原 脩 画



小川原脩が初めて中国を訪れたのは1944（昭和19）年、日本が太平洋戦争での戦局において不利な状況になった頃でした。従軍画家として中国大陸を歩いた時、桂林に行きたいという思いがあったそうですが、武漢、岳陽、長沙、そして衡陽へと前線を追うようにして進んだものの衡陽から引き返すことになりました。

桂林を訪れることができたのはそれから35年後のことでした。「広州・桂林友好訪中団」のツアーに参加した小川原でしたが、戦争に翻弄された時代を生きた人間にとって、中国への旅は心躍るだけのものではなかったことでしょう。桂林での滞在中、小川原はスケッチブックに風景や動物、街の様子を描き留め、帰国後は、それらをモチーフにしてキャンバスに再構成することで当地の情景を表現しました。

この作品は、のどかな耕作地でしょうか。薄い青や赤を混ぜた温かみのある背景にふんわり茂った樹木の葉が描かれ、樹の下には今にもものそりと動きそうな牛たちが並んでいます。かつて戦地の状況を記録するために渡った中国でしたが、この作品からは平穏な日常が感じられます。この旅をきっかけに、その後の小川原作品は大きく変化していくのでした。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

ふるさと探訪

風土館前庭の積雪深モニュメント

503回

倶知安風土館の前庭に建つ、8基のモニュメント。

これらは豪雪の町・倶知安で降り積もった雪の歴代トップ8（1955～2001年）を表現したもので、2001（平成13）年に倶知安町開基110年を記念して建てられました。

モニュメントの裏表には、積雪深と記録された年が刻まれています。モニュメント自体も積雪深と同じ高さで作られており、雪のない時期でもこの地域の雪深さを感じられます。

倶知安町の最深積雪312㌢は、2018（平成30）年に幌加内町の324㌢に越されるまで道内積雪深ランキング1位でした。

右の表は、当時のトップ8と2001年以降に積雪深228㌢を超えた記録を合わせたもので、緑は2001年以降の新しい記録です。

雪の量が減少傾向にあるとされる昨今ですが、意外にも令和の記録がランクインしています。これからの気象はどのようになっていくのでしょうか。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

順位	西暦	年度	積雪深(cm)	降雪量(cm)
1	1970	昭和45年	312	2019
2	1957	昭和32年	283	1486
3	1986	昭和61年	249	1518
4	1988	昭和63年	248	1556
5	2005	平成17年	239	1410
6	1974	昭和49年	238	1447
7	1982	昭和57年	236	1509
8	2021	令和3年	236	964
9	1965	昭和40年	235	1434
10	2023	令和5年	230	850
11	1977	昭和52年	228	1617
最下位	2020	令和2年	95	684

倶知安町積雪深トップ11と最下位（参考：気象庁HP）



最も大きなモニュメント（1970（昭和45）年の312㌢）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展「アジアの大地」

小川原脩は晩年、アジア—中国桂林・チベット・インドへ旅をし、鮮烈な印象を受けて作品を製作しました。悠々とした大地、人と動物たちが繰り広げる豊かな時間が紡がれる絵画世界をご覧ください。

会期：開催中～5月11日(日)

■第2展示室

林 雅治展「WORK 土でつくるもの」

京都府出身で町内在住の作家・林雅治さんの陶による造形作品を展示します。長年にわたり研究を重ねた豊かな作品世界をお楽しみください。

会期：開催中～4月13日(日)

○関連イベント「動く?! 立体スケッチに挑戦」
スケッチからコマ撮りアニメーションを作ります。

日時：3月22日(土)10時～12時

会場：第2展示室※申込不要



アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

おとなの手しごと (32)「オリジナルの包装紙を作ろう」

紙に絵を描いたり、写真を貼ったりしてデザインしたものをコピーしてラッピングペーパーを作ってみませんか。すてきなバッグも作れます。

日時：3月22日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）

講師：沼田絵美（副館長）、金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

予約受付：電話申込（☎21-4141）

■ロビー・ギャラリー

冬期間に「ロビー・ギャラリー」（町内や近隣町村で創作活動を行う作家・愛好家の展示）を開催します。

・成清北斗展（倶知安観光協会主催）3月8日(土)～23日(日)

・小前なおみ展 3月24日(月)～4月13日(日)

詳しくは、町HPをご覧ください



倶知安風土館のお知らせ

■エントランス展示「倶知安の農業【ビート編】」

倶知安の風物詩であるじゃがいも畑ですが、輪作の大事なパートナーになっているのがビート（甜菜）です。風土館が所蔵しているビート収穫道具を皮切りに、ビートという植物や砂糖の歴史、作り方などについて紹介します。皆さんのビートエピソードをぜひお寄せください。

会期：開催中 会場：1階エントランス（無料スペース）

■年中行事「ひな人形」

会期：開催中～3月5日(水)（啓蟄）

会場：1階エントランス（無料スペース）、人文展示「すまう」



小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

3月の休館日 毎週火曜日

美術館長から

表題は、このコラム枠が初掲載された平成27年7月号のもの。当時の美術館長だった柴勤館長が、「しりべしミュージアムロード共同展」を紹介した記事が始まりでした。

令和4年に私が担当となってからは丸3年。美術にまつわる身近な事柄に目を向けるうちに、自分自身の興味や楽しみが広がり、新しい場所、知らなかった言葉との出会いもありました。

この経験を生かし、次回からは最も身近な場所である当美術館や風土館の魅力、よりしっかりとお伝えしていきたいと考えていますので、どうぞご期待ください。

館長 福原秀和